

平成 24 年 5 月 17 日

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

アーツコミッション・ヨコハマ事業

平成23年度報告

1. 平成 23 年度 概況

ACY を 2007 年に開始してから 5 年目の節目であり、ヨコハマトリエンナーレ 2011 開催を迎えるにあたり、一層の充実が問われた年でした。

芸術分野で力を入れたのは、横浜における創造的活動助成「先駆的芸術活動部門」の拡充です。トリエンナーレ、TPAM 開催にあわせて実行額を増やし、会期中に行われるアーティストの自主的な活動を支援しました。特に市民に直接触れる機会の多い街の中で展開される活動、横浜において長年積み重ねられてきたプロジェクト、優良なコンテンツを横浜に盛り込むディレクター事業などを評価しています。

まちづくり、産業分野も大きな成長した年でした。芸術不動産事業は、横浜の歴史ある企業から相談も受け、横浜を代表する日本大通り地域に取り組みました。また、吉田町地域に複数のディレクター、デザイナーを誘致し、20 年閉じていた路面店を地域に開いていく事業ができました。

これまで誘致、活動してきたアーティスト、クリエイターの集積効果をさらに発揮すべく、より密度の高いアーティスト同士のネットワーク形成と地域との連携を目指して、関内外 OPEN! のコンセプト、目標、意志決定の変更を行いました。これまで点在していた拠点群の緩やかな連携が始まっています。また、障害者施設とアーティスト、デザイナーを繋ぐ横浜ランデヴープロジェクトの実行委員会に参画し事務局を担いました。

アジアを軸とした国際交流プログラムとしてのアーティスト・イン・レジデンス事業、「国際舞台芸術ミーティング in 横浜 (TPAM) などを実施し、多様な民間事業者と連携を図る中で政策を進めています。

2. 平成 23 年度 事業実績

(1) 創造の担い手支援

助成制度や支援プログラム、相談窓口の運営を通じて、横浜に集う創造の担い手たちが自主的に活動できる環境作りに取り組みました。主に専門家向けの窓口という認知が上がっていることもあり、相談の質は高まっています。特にトリエンナーレ期間中、サイトスペシフィックなアート活動の場所の展開は ACY のネットワーク力が生かされました。横浜市の他局からの相談、民間オーナーからの不動産相談など事業化される割合が高まっています。

① 相談・コーディネート業務(ACY)

期 間	通年
場 所	YCC2 階 ACY ラウンジ
内 容	相談例 ・企業より自社物件活用の相談→事業化 ・公共空間や住宅展示場などを公演、作品設置の場として使用する相談。→調整 ・経済局、都市整備局系事業より創造産業系起業等における相談→随時支援 ・地球温暖化対策室よりデザイナー紹介依頼→提供 ・文化観光局よりデザイナー紹介依頼→提供

②ACY 助成事業

●横浜における創造活動助成 先駆的芸術文化活動部門(ACY)

創造性に溢れた先駆的な芸術文化活動に対する助成。今年度はヨコハマトリエンナーレ 2011、国際舞台芸術ミーティング 2012 の開催年として、より広範に芸術文化による街のにぎわい作りの達成のため、予算を増額して募集しました。採択・交付方針としては、①横浜で展開される日常的アート活動の支援、②ヨコハマトリエンナーレ 2011 や TPAM2012 の開催都市にふさわしい芸術性の高いアートイベントの支援、③1 件当たり交付額の増額を重視しました。

結果、申請数が 100 件に伸び(前年度 62 件)、1 件当たり交付額も 60 万円から最高額 170 万円までとなり、アーティストにとってより有益な支援となったとの反応がありました。

また採択事業はヨコハマトリエンナーレ 2011 連携イベントとして認定されたほか、舞台芸術公演は 3 事業が TPAM 参加事業となるなど存在感を発揮しています。

■助成実績:総助成額 1060 万円、採択件数 16 件(申請数 100 件 > 前年 63 件)

平成 23 年度交付対象事業
<p>1 NPO 法人 Offsite Dance Project 岡崎松恵 『都市空間におけるダンスコラボレーションプロジェクト「Borrowed Landscape Yokohama(横浜借景)」』</p> <p>第一線で活躍するベルギーと日本のアーティストのコラボレーションによるインスタレーションパフォーマンス。伝統的な“借景”の技法をパフォーマンスアーツに用いて、都市の風景と人との関係をリデザインする。</p> <p>2011 年 10 月 28 日[金]・10 月 31 日[月]・11 月 1 日[火] 会場:横浜ホームコレクション内「ハウゼ」モデルホーム 交付額:170 万円</p>
<p>2 NPO 法人 DRIFTERS INTERNATIONAL 『ドリフターズ・サマースクール・ショーイング』 ダンス・制作・ファッション・建築、各業界の最前線で活躍するプロフェッショナルの講師と一体となり、異ジャンルとの交流により様々な感性や価値観に触れ、若手クリエイター達がひとつの作品をつくりあげる「ドリフターズ・サマースクール」の最終成果発表パフォーマンス。</p> <p>講師:山田うん、中山英之、玉井健太郎、中村茜、金森香、藤原徹平など。</p> <p>2011 年 9 月 14 日[水]、15 日[木]、16 日[金] 会場:KAAT 神奈川芸術劇場 交付額:110 万円</p>
<p>3 マームとジプシー 『マームとジプシー8月公演「塩ふる世界。」』 藤田貴大が全作品の脚本と演出を務める演劇団体。シーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。今回は横浜を代表する小劇場 ST スポットにて、新作「塩ふる世界。」を上演。</p> <p>2011 年 8 月 17 日～22 日 会場:ST スポット *ヨコハマトリエンナーレ 2011 連携プログラム 交付額:50 万円</p> <p>*本作品は、第 56 回岸田國土戯曲賞を受賞しました。</p>

4 寿オルタナティブ・ネットワーク 『コトブキ案内 2011 』

横浜市寿町エリアのまちなかやホステルなどにアート作品を設置し、期間中の週末を中心にツアーやイベント、宿泊プログラムなど多彩なプログラムを「ヨコハマトリエンナーレ2011」会期に合わせて展開。

2011年8月6日～11月6日 会場:横浜市寿町エリア

*ヨコハマトリエンナーレ 2011 連携プログラム

交付額: 100万円

5 北仲スクール 室井尚 『「クシシュトフ・ヴォディチコ アートと戦争」 国際シンポジウム+パブリック・プロジェクト「Survival Projection 2011」

9.11 から 10 年目となる今年、そして 3.11 が発生した今年、平和構築へ向ける社会的なメッセージを一貫して投げかけてきたポーランド出身のアーティスト、クシシュトフ・ヴォディチコを招聘。市民・学生とともに、国際シンポジウム、パブリック・プロジェクトからなるアートイベントを創り上げ、人類の血塗られた歴史に対してアートに何ができるのかというメッセージを、横浜から力強く発信。

2011年8月5日[金]、9日[火]、11日[木](パブリックプロジェクト)、8月8日、9日、10日(シンポジウム)

会場:新港ピア、せんだいメディアテーク(パブリック・プロジェクト)、ヨコハマ創造都市センター(シンポジウム) *ヨコハマトリエンナーレ 2011 連携プログラム

交付額: 40万円

6 岩淵貞太 『ダンスサイクル 2011-2012』

ダンサー・振付家の岩淵貞太が、コンテンポラリーダンスの今日的在り方や、作品・アーティストと観客とのコミュニケーションを探るプロジェクト。音楽家や他の振付家をゲストに招き、ワークショップや公演を実施し、互いの表現活動がより豊かになることを目指す。

●ワークショップ: 2011年7月

●新作公演『岩淵貞太ソロパフォーマンス living』2012年2月10日～13日

-物を視る。音を聴く。対峙する。当たり前なことの本质を問い続け、みえてくるものとは一。

会場: STスポット(横浜市西区北幸 1-11-15 横浜 STビル B1)(予定)

* TPAM2012 参加作品

交付額: 70万円

7 blanClass 小林晴夫 『blanClass +night』

横浜市南区の住宅街の一室で、毎週土曜日の夜、現代美術、現代音楽、詩、モダンダンス、建築、写真、現代思想等々、様々な形式やジャンルのゲストによるライブパフォーマンス、レクチャーダンスやワークショップなどのワンナイトイベントを開催。本番後の公開インタビューは公式ホームページよりストーリー ミングで生放送され、その後一部をアーカイブとして配信。

2011年6月4日～2012年3月31日 会場: blanClass(横浜市南区南太田 4-12-16)

*ヨコハマトリエンナーレ 2011 連携プログラム

交付額: 60万円

8 コトラボ合同会社「空間の力を活用した実験プロジェクト」

社会から孤立しがちな人々が、デザインされた空間の力や寿町の外での地域コミュニティに参加することで生きる意味を見出したり、やりがいを作っていることができる生活空間の形成を行う。

2011年10月29日に完成空間のお披露目会を実施。

交付額:60万円

9 有限会社 アイトゥーン 伊藤有孝『短編ネオクラフトアニメーション映画「HARBOR TALE」制作・プレミア上映』

メディア芸術プロジェクト。横浜市に移転以来温めてきた、横浜由来の“港町”が舞台の物語を創作、公開。本作から横浜をイメージするキャラクターワールドが生まれ、日本をはじめ世界に広がっていくムーブメントとする。●プレミア上映会:2011年10月24日 会場:赤レンガ倉庫3F(プレミア上映のため招待制)

交付額:60万円

10 瀬田なつき『5windows』

横浜・黄金町を舞台に、橋の上で小さくすれ違う4人の過去、未来、記憶、幻想、そしてあったかもしれない現在を、監督・瀬田なつきが描き出す。彼女と初のコラボレーションで音楽を担当するのは、様々な分野を横断しながら活躍する注目の音楽家、蓮沼執太。今回は音響全体の監修を担当。撮影から参加し、現場の音をサンプリング。この二人が生み出す映像と音が、街に漂う。(港のスペクタクル 建築×映画×音楽×アートプログラム)「漂流する映画館“Cinema de Nomad”」上映。

2011年10月1日(土)～10月7日(金)

会場:Cinema de Nomad 会場(シネマ・ジャック&ベティ、nitehi works)

*ヨコハマトリエンナーレ 2011 連携プログラム

交付額:80万円

11 康本雅子『康本雅子×ダブルフェイス横浜中華街公演』

ダンサー・振付家の康本雅子が、現在は閉鎖中の広東料理店、同發新館を会場にパフォーマンス。スペシャルゲストにオオルタイチを迎え、多国籍音楽と無国籍歌唱の初共演も実現。

10月1日(土) 14時半～/18時半～

会場:横浜中華街同發新館

*ヨコハマトリエンナーレ 2011 連携プログラム

交付額:40万円

12 N-mark 武藤勇『新ナゴヤ島』

名古屋のアートカルチャーを独自の生態系を育む「島」(ガラパゴス化)と捉え、そこに生息するアーティストを紹介する。新・港村を会場に「新ナゴヤ島」展。10名のアーティストが入れ替わり、制作、ワークショップ、ライブ、展示など。

2011年9月3日(土)～11月6日(日) 会場:新港ピア 新・港村(横浜市中区新港2-5)

*ヨコハマトリエンナーレ 2011 連携プログラム

交付額:50万円

13 KATHY『KATHYの仮面舞踏会』

横浜のクラシックホテル「ホテルニューグランド フェニックスルーム」を舞台にした仮面舞踏会。「見えない力（KATHY）」によって翻弄される、というコンセプトを観客と演者が共有し、体感していく。また古き良き伝統と、投げ入れられたカオスとの融合により、新たな表現を探っていく。

2011年11月2日(木)

会場:ホテルニューグランド フェニックスルーム(横浜市中区山下町10番地)

*ヨコハマトリエンナーレ 2011 連携プログラム

交付額:40万円

14 Art Center Ongoing1『Essential Ongoing ～静寂と狂気～』

東京の数少ないインディペンデントアートスペース Art Center Ongoing で発表を行ってきた数多くのアーティストから10名を選抜。本展のタイトルである essential とは「欠くことのできない」という形容詞であり、その語意通り、現在進行形で今なお進化を続ける Art Center Ongoing を象徴する10人のアーティストがここに集結する。

2011年9月2日(金)～9月21日(水)会場:新港ピア(新・港村ギャラリー)

*ヨコハマトリエンナーレ 2011 連携プログラム

交付額:150万円

15 野村誠『老人ホーム REMIX#2 ドキュメンタリー・オペラ』

野村誠(作曲家)は、横浜の下川井にある特別養護老人ホーム「さくら苑」にて、12年間に渡り共同作曲を続けてきた。今回発表する新作は、戦後の復興に関するお年寄りの語りの映像にピアノで応じる意欲作。震災からの東日本復興への応援歌としてのドキュメンタリー・オペラ。

2012年2月18日、19日 会場:STスポット(横浜市内西区北幸1-11-15 横浜STビルB1)

*TPAM2012参加作品

交付額:100万円

16 ブリティッシュ・カウンシル『日英のアーティストによる横浜を舞台にした観客参加型プロジェクト“Play Yokohama!”』

TPAM2012会期に合わせて英国アーティストを横浜に招聘。日本のアーティストとともに横浜で公開滞在制作を行う。制作の成果としてのアートプロジェクトを横浜の街を舞台に展開。

プロジェクトは観客参加型で、GPS やソーシャルメディアなどを駆使し、観客がオンライン常でも楽しめるものを想定。

2012年2月予定 会場:横浜市内

交付額:20万円

●横浜における創造活動助成「企業・団体による創造的事業部門」(ACY)

2-(2)創造産業集積のための仕組みづくりを参照。

●クリエイター・アーティストのための事務所等開設支援助成(ACY)

2-(2)創造産業集積のための仕組みづくりを参照。

●芸術不動産リノベーション助成(ACY)

2-(2)創造産業集積のための仕組みづくりを参照。

③事業評価研究会

助成金交付事業を評価するための研究会「ACY助成制度に関する事業評価研究会」第二期を開催しました。これにより、創造都市政策に対してより効果的な仕組みづくりを行い、助成交付を軸として、ACYに必要な機能の整理を図っていきます。また、助成対象者であるアーティストなどが、横浜で中期的な目標を持って活動できるための仕組みづくりを行い、交付事業の質・量の向上を目指します。これまでの数値をまとめ、24年度の助成プログラム作成に活かします。

④講座・シンポジウム(ACY)

アーティストやクリエイター、アートNPOに活動に必要な実務講座を実施しました。

【講座1】

名称	ACY 講座 アートで生計を立てるぞ！「ギャラリストの視点」
日時	2012年1月27日(金)18時~20時
会場	ヨコハマ創造都市センター 3F スペース
内容	講師:小山登美夫(小山登美夫ギャラリー代表) アーティストを目指す人々を対象に、プロとして生計を立てるためのヒントを伝授する講座の第1回。日本の現代アート界を牽引する小山登美夫ギャラリーの代表に、ギャラリストからみたプロの条件を話してもらう。

【講座2】

名称	ACY 講座 アートで生計を立てるぞ！「キュレーターの視点」
日時	2012年2月24日(金)18時~20時
会場	ヨコハマ創造都市センター 3F スペース
内容	講師:天野太郎(横浜美術館主席学芸員) 同講座の第2回目。ヨコハマトリエナーレでキュレトリアルチーム・ヘッドを務めた天野氏に、キュレーター(学芸員)からみたプロの条件を話してもらう。

【講座3】

名称	ACY 講座 アートで生計を立てるぞ！「コレクターの視点」
日時	2012年3月17日(土) 14時~16時
会場	ヨコハマ創造都市センター 3F スペース
内容	講師:宮津大輔(現代アートコレクター)、小山登美夫 同講座の第3回目。積極的に若手作家の作品を購入することで創作活動を支援してきた宮津氏に、購入したくなる作品について話してもらう。

⑤アートデータバンク(ACY)

期間	通年
内容	これまでの自由登録による人材バンク機能を改め、ACY・YCCと関連する活動実績(助成交付、協働プロジェクトの実施等)のあるアーティストやクリエイターのアーカイブ機能へ転換を行いました。来年度よりアーカイブ運用を開始します。

(2) 創造産業集積のための仕組みづくり

アーティストやクリエイターの横浜への集積が順調に進んでいます。今年は、芸術不動産リノベーション助成 2 年目として、これまでの仕組みや成果を横浜市と共同で研究検証し、次の施策に繋げる準備を行っています。24 年度の計画に反映させます。また、リノベーション助成は特定エリアから集中した申請を得たため、将来的な大きな成果を見込んでいます。

①横浜における創造活動助成「企業・団体による創造的事業部門」(ACY)

企業または団体が、創造産業分野と連携し、新産業の創出、都市の課題解決などに取り組む事業に助成金を交付しました。本助成事業は昨年度、横浜市からACYに移管し迎えた 3 年目です。主な変更点として、トリエンナーレにあわせて芸術文化系を充実させたため、総額は抑えられています。小さいながらも、クリエイター主導により地域の商店を連携させてブランディングした商品を売り出すなど、ユニークな活動がみられます。

■募集期間:平成 23 年 3 月 1 日(火)から 4 月 30 日(土)

■助成実績:総助成額 300 万円、採択件数 6 件(申請数 12 件/前年 12 件)

平成 23 年度交付対象事業
<p>1) おいしい観光都市プロジェクト</p> <p>* 交付辞退</p> <p>「イベントから日常へ」をテーマに横浜市内から関東エリア・関西エリアで「食材ピクトグラム」をホテル・飲食店等に普及、ウェブサイトを中心に広報、食材ピクトグラムのデザインを活用したグッズを制作・販売し、認知度向上とブランド構築を目指す。</p> <p>■実施時期:平成 23 年 4 月～7 月/交付額:75 万円</p>
<p>2) 共同サンド</p> <p>BankART Artist in Residence 2011 の期間中、公開制作の形で企画立案からデザインの実制作、試作まで検討と決定のプロセスのすべてを行う。完成後にアーカイブとして利用できる形をとる。路上にて自転車でサンドイッチの販売を行う移動販売店「共同サンド」の開店にむけたプログラム。</p> <p>■実施時期:平成 23 年 5 月 17 日～6 月 26 日/交付額:15 万円</p>
<p>3) 関内ハイカラ市 2011</p> <p>弁天通り 2 丁目～4 丁目の間で3つのゾーンに分け、東京芸大等の学生達の現代アートや骨董屋のアンティークなアートと地産地消や地元店などの食を融合させたイベントを行う。メディアセンター内では映像を使ったものや、シンポジウム、学生との意見交換会なども行い、関内から発信できるイベントをめざす。</p> <p>■実施時期:平成 23 年 11 月 3 日/交付額:60 万円</p>
<p>4) 町のお稽古でつながる地域の和</p> <p>「町のお稽古マップ」作成・お稽古体験会・お稽古場合発表会・若年層への日本文化啓蒙活動、以上を活動の柱とし、日本文化のお稽古場を町の文化の発信拠点として、地域社会と日本文化の活性化事業を行う。</p> <p>■実施時期:平成 23 年 8 月より順次制作・合同発表会平成 24 年 3 月 24 日/交付額:90 万円</p>

5) よこはま野菜ブランド・コンテンツ映像フェスティバル

* 事業変更が認められず不交付決定

(1)横浜野菜を使った映像作品(ブランド・コンテンツ)のコンペを行い、集まってきた映像作品を一般公開する。(2)映像作品を通して、横浜野菜のブランドをアピールする。(3)併せて、建物前等で、横浜野菜のマルシェを開催する。(4)映像作品は、ソーシャルメディア(特にYoutube)などを通じて公開していく(5)センターのカフェとコラボにて、横浜野菜を使った料理をお客さんに提供する。

■実施時期: 平成 24 年 2 月予定/交付額: 10 万円

6) 横浜ヴァージンフェスタ 2011

先駆的なアーティストとしてのアイデンティティを有しながら、唯一個性的な作品を表現し得るか。「ヴァージン」すなわち「未踏の領域」をめざして完成された作品を一同に展覧する祭典。アート&クラフト展、ステージイベント(音楽・ダンス公演)、アンサンブル公演、レセプションパーティー、トークショー、体験ワークショップなど。

■実施時期: 平成 23 年 7 月 30 日~7 月 31 日/交付額: 50 万円

②クリエイター・アーティストのための事務所等開設支援助成(ACY)

都心部の活性化、創造産業の振興を図るため、関内・関外の既存民間建築物にアーティスト、クリエイターが移転する際に助成を交付します(審査中)

■募集期間: 平成 24 年 1 月 13 日 〆切

■助成実績: 総助成額 5,666,000 万円、採択件数 11 件(申請数件/前年 16 件)

平成 23 年度交付実績			
交付者名		ジャンル/進出地域	交付金額
Studio M point 鈴木美恵	個人	プロダクトデザイン/中区	183,000
合同会社クリップアンドバイソン 春名貴子	団体	映像/中区	576,000
有限会社エー・エープランニング	団体	建築/中区	762,000
ke-ken 有限会社 河辺近	団体	建築/中区	599,000
MA-office 竹本真紀	個人	美術/中区	1,048,000
森川正信	個人	WEB デザイン/中区	149,000
加藤夕紀子	個人	グラフィックデザイン/中区	505,000
シーオー・ミュージック 水上浩介	個人	音楽/中区	261,000
アルファデザイン 小野寺志保	個人	グラフィックデザイン/中区	349,000
株式会社飯田善彦建築工房 飯田善彦	個人	建築/中区	929,000
Baroque voice 内田輝	個人	音楽、他/中区	480,000

③芸術不動産リノベーション助成(ACY)

都心部の活性化、創造産業の振興を図るため、関内・関外の既存民間建築物で、新たにアーティスト、クリエイター等の活動拠点に整備・転用することにより、その活動を支援するビル改修に対する助成を交付します。(審査中)

■募集期間: 平成 23 年 4 月 1 日(金)~平成 23 年 12 月 26 日(月)

■助成実績: 総助成金額 14,445,000 万円、採択数 2 件/申請数 2 件

<p>1. 申請者:株式会社飯田善彦建築工房 申請内容:ライブラリーカフェ、ギャラリースペース、建築事務所の整備 171.32 m² 住所: 横浜市中区吉田町 交付金額:5,139,000 円</p>
<p>2. 申請者:NPO 法人アートプラットフォーム(共同申請:彼誰堂) 申請内容:演劇やダンス公演を行う小劇場空間、カフェスペース、国際交流のための茶室、 アーティスト・イン・レジデンス(スタジオ)空間の整備。310.21 m² 地域: 横浜市中区吉田町 交付金額:9,306,000 円</p>

④芸術不動産モデル事業(ACY)

アーティスト、クリエイターの拠点増加を目的に、オーナーからの申し出を支援する形で所有物件の調査や公募などを行う事業。民設民営型の創造拠点を官民協働で考える仕組み。建築や商業の専門家などと連携して行っています。また、今年は、新港村のイベントとして、アーティストと一緒に物件大喜利を題し、空き物件のリサーチツアーを行いました。

■調査対象物件数:2件

■事業化:2件(現在公募中)

⑤横浜ランデヴープロジェクト(YCC)

平成23年度は「ふるさと雇用再生特別基金事業」として実施。新たに専任職員を雇用し、直営店で通常の販売を目指しました。財団は「横浜ランデヴープロジェクト実行委員会」の事務局を務め、労務管理を担当しました。アーティストと地域の福祉作業所のマッチングにより、新たな商品開発を行うとともに横浜高島屋、JREキ्यूトなどへ販路を開拓し、継続的活動を目指しました。

(3)将来の担い手の支援

横浜で活動する若手の活動支援を通じて、将来の創造の担い手となる育成を図りました。特に、ACY事業として実績を積んでいる卒業制作展支援とインターンシップ事業を柱にプログラムを充実させ、教育機関とのネットワーク形成を図りました。

① 卒業制作展広報支援(ACY)

卒業(修了)制作展サポート 2012	
実施期間	12月末～3月
内容	<p>創造界隈エリアで開催される美術系の大学・専門学校の卒業(修了)制作展について広報支援を行いました。ポスター、フライヤー、ウェブサイトを設置し、情報を発信。さらに今年度は、facebook、twitterを活用し、個々の展覧会の情報を随時更新。また、展覧会の出展作品を facebook に掲載し、来場者のコメントを自由に投稿できる場を設けました。また、他大学の異なるジャンルの学生間交流を促すため、学生の交流会を実施。お互いの卒展の広報に役立つほか、facebook などによる情報発信についてレクチャー。学生自身が卒業後に役立つノウハウを提供しました。</p> <p>・参加団体数:29団体</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター部数: 120 枚、リーフレット部数: 8,000 枚 ・配布先総数: 横浜市内・都内の文化施設、書店、美術教育機関約 250 ヲ所 ・学生交流会: 2012 年 1 月 27 日実施

②インターン支援(ACY)

実務実習を通じて創造都市への理解を深めてもらうと共に、将来のキャリア形成に対する意識を高めてもらうことを目的に、創造界隈で行われる事業にてインターン生の受け入れを行いました。

受入事業	関内外 OPEN! 3
業務内容	関内外 OPEN! 事業制作補佐 (広報業務、ツアーガイド等)
期 間	8 月 23 日(火)～11 月 5 日(土)
受入数	11 名

(4)海外連携 - アーティスト・イン・レジデンス事業、TPAM(国際舞台芸術ミーティング)

①創造都市国際レジデンス事業(ACY)

昨年度、震災により実施延期となっていたレジデンス事業の発表を BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンター、Far East Contemporaries の 3 つの団体と行いました。また、台北国際芸術村との交換プログラムを BankART と共催で実施、TPAM のレジデンス事業とも連携しています。

事業①	台北市・横浜市アーティスト交流プログラム
主 体	BankART1929
期 間	2011 年 8 月 15 日～8 月 30 日
会 場	新・港村
内 容	平成 22 年度に実施した、台北アーティスト: チン・イーホエイ氏の横浜滞在制作の成果発表(※)を実施しました。(BankART LifeⅢ “新・港村”会期中、新・港村にて展示) ※東日本関東大震災の影響により中止。 ■陳怡慧 台北から招聘。震災の影響で延期となっていたパフォーマンスを開催。横浜で収集した日常音と小学校で撮った子供たちの音声を用いたピアノ演奏によるパフォーマンス。

事業②	台北市・横浜市アーティスト交流プログラム
主 体	BankART1929
期 間	派遣: 2012 年 1 月～4 月、受入: 2012 年 1 月～3 月
会 場	BankART Studio NYK、台北国際芸術村
内 容	台北派遣作家: 幸田千依、来日作家: 羅仕東 横浜に約 3 ヶ月滞在し、アーティストとの交流やリサーチ・制作に取り組みます。成果発表として展覧会を開催します。

事業③	横浜市・北京市アーティスト・イン・レジデンス交流事業 陳維「漠然の素」 3F スペース 孫遜「主義之外」 B1 スペース
主 体	Far East Contemporaries / ヨコハマ創造都市センター
期 間	2011 年 10 月 21 日(金)～11 月 6 日(日)
会 場	ヨコハマ創造都市センター 3F スペース B1 スペース
内 容	<p>■陳維 北京から招聘。震災の影響で延期となっていた展覧会を開催。昨年度の横浜滞在と中国での制作を経て完成した 12 点の作品を展示。 入場者数 6,801 人</p> <p>■孫遜 来日を予定していたがキャンセルとなった。横浜滞在中に描いた墨絵をアニメーション化した映像作品を上映。 入場者数:6,801 人(3F のみでカウントした数字)</p>

事業④	タイ・チェンマイとのアーティスト・イン・レジデンス交流事業
主 体	NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター
期 間	2011 年 8 月 6 日～
会 場	黄金町エリアマネジメントセンター内スタジオ
内 容	<p>平成 22 年度に実施した、タイ人アーティスト:サンティパープ・インコン=ガム氏の横浜滞在制作(※)の成果発表を実施しました。(黄金町バザール2012会期中、竜宮美術旅館にて展示)</p> <p>※東日本関東大震災の影響により中止。</p> <p>●サンティパープ・インコン=ガム氏</p> <p>ローカルコミュニティやマイノリティとの交流を通して作品を制作。平成 22 年度は黄金町にて、地域コミュニティに関する調査を行い、作品またはワークショッププランの提出を行う。制作活動やトークイベントなど実施した。</p>

②国際舞台芸術ミーティング in 横浜 (TPAM in YOKOHAMA2012)

実施	2011 年 2 月 13 日(月)～2 月 19 日(日)
内容	<p>演劇・ダンス・音楽などの舞台芸術作品の国内外での普及と国内外の舞台芸術関係者の交流を促進し、ネットワークとプレゼンテーションをはかる場として、都心臨海部の各所で開催します。昨年に引き続き、財団は実行委員会に参画し、YCCを主会場の一つとしました。昨年の会場提供に加えて、震災後の国際交流と創造都市ヨコハマの認知を高めるさらなる広報の充実をはかるため、その一部を分担、また、期間中 BankART でのブースに出展、横浜駅通路でのポスター展示などを行います。</p>

(5) 創造都市プロモーション事業(媒体の制作・活用)

クリエイティブシティ政策に対する市民理解を深め、国内外にアピールできるよう発信力の強化を目指しました。

1) アートウェブマガジン ヨコハマ創造界限 http://www.yaf.or.jp/yccmag/	
実施時期	通年(偶数月更新) Vol.11(4月)、Vol.12(6月)、Vol.13(8月)、Vol.14(10月)、Vol.15(12月)、Vol.16(2月)
	横浜では数少ない編集を加えた読み物媒体として、創造界限の情報を発信。 ・Yokohama Creative People(インタビュー) (横浜で活躍するアーティストやディレクターを紹介) ・VIA YOKOHAMA(横浜美術館主席学芸員・天野太郎コラム) ・アート caféめぐり(ユニット・Yokohama Creative Mapによる街紹介コラム) ・What's Up!イベント紹介(これから行われるお勧めイベント情報) ・Catch Up!イベントレポート(終了イベントの実施レポート) ■アクセス数:年間平均約3000ページビュー アクセス率の増加

2) 創造都市政策を紹介するWEBサイト制作	
実施時期	通年、3月公開
	*納品が間に合わず、戻入。 「クリエイティブシティ・ヨコハマ」について、これまでの歩みの基本的な流れを俯瞰し説明するWEBページを制作。ACYのWEBサイト上で創造都市プロモーションの充実と発信力を高めるコンテンツとして位置づける。

(6) 創造界限インフォメーション事業

クリエイティブシティ政策や創造界限を中心に横浜のアートやまちづくりに関する情報を来館者に提供しました。来館者へのサービスや、横浜発祥の商品や地元アーティストの作品の紹介の場として、インフォメーションデスクを兼ねたYCCカフェ、港ポーポを自主運営しました。

メールニュースでは、YCC関連事業のほか、創造界限拠点が行う事業についても情報収集と配信を行います。

1) YCC1階インフォメーション業務	
通年	
	カフェ兼インフォメーションを今年度より自主運営とし、スタッフも財団雇用に移行しました。創造都市政策のツアー参加などスタッフ研修を強化し、理解を深めさせました。 インフォメーションボードを核に情報提供するとともに、新たにTwitterによる情報提供もスタートしました(フォロワー167名)。ヨコハマトリエナーレ2011期間中はOPEN YOKOHAMAのインフォメーションブースを設置し、期間中の情報提供を強化しました。

2)YCC メールニュース(月2回発行)(YCC)	
実施時期	通年(月2回配信)
	YCC/ACYの主催・共催事業のほか、創造界隈拠点施設やACYのアーティスト支援に関する情報を定期配信。2011年度1月からは、創造界隈の質の高い情報をより広範囲に提供するため、「ヨコハマ創造界隈 News」に名称変更し、発行主体をACYへと変更している。 ■登録者数: 2339

(7)YCC 事業

①YCC プレゼンテーションー歴史的建造物内スペースの有効活用(YCC)

横浜を代表する歴史的建造物としての空間特性を活かし、市民が建物に親しみ、アートに触れることのできる企画を実施しました。

夏休み子どもアドベンチャー2011「わくわく! ぱくぱく!! YCCって不思議!!!」

実施日時	2011年8月17日(水)、18日(木)
会場	ヨコハマ創造都市センター3階スペース
内容	市内在住・在学の小・中学生等を対象に行われる夏休みの体験学習の一環として実施。間伐材を使いスプーンやお皿を作り、それを使っておやつを食べることで、食、環境について認識を深めてもらいました。 ■参加費:500円 おみやげ付き ■参加数:65名(計4回)

クラシックヨコハマサロンコンサート@YCC

実施日時	2011年12月17日(土)14:00~16:00
会場	ヨコハマ創造都市センター1階ホール
内容	全日本学生音楽コンクール本選が横浜で実施されるに際し、同コンクールの過去の入賞者によるコンサートを実施することで、若手演奏家の支援を行った。出演者は、伊澤悠(ピアノ)、林周雅(ヴァイオリン)の10代の若手演奏家。聴衆の中には今回初めてYCCを訪れたという方も多くみられた。 ■入場者数:87名(

②YCCセミナー(YCC)

本セミナーでは、「創造性」、「地域資源」、「コミュニケーション」をキーワードに、全国的に話題を呼んでいるプロジェクトの実践者を講師として招き、具体的な取り組みを紹介してきました。2011年3月の震災を経験した今年度、従来のテーマは継承しつつも、「社会性」を強く打ち出した番組をラインナップしました。

実施日	内容
9月5日(月) 15時~17時	「中村ブレイス株式会社~石見(いわみ) 銀山から世界へ、幸福の発信」 【講師】中村俊郎(中村ブレイス株式会社代表取締役社長)

	<p>鳥根の山あいの里にありながら世界的な義肢装具メーカーとして知られる中村ブレイスの社長をお招きして、講演会を開催。</p> <p>■来場者数 35人</p>
11月10日(木) 15時～17時	<p>「ホームレスはホープレスではない 奇跡の雑誌ビッグイシュー」</p> <p>【講師】佐野章二(ビッグイシュー日本 代表)</p> <p>雑誌販売の仕事を通して、路上生活者が社会復帰するための支援をしているビッグイシュー日本版の佐野代表を招いて、講演会を開催。</p> <p>■来場者数 30人</p>
12月3日(土) 15時～17時	<p>「フェアトレードは世界を変えられるか」</p> <p>【講師】胤森なお子(フェアトレード・カンパニー常務取締役)</p> <p>貧困のない世界を目指しフェアトレード活動を続ける、フェアトレード・カンパニーの常務取締役兼広報ディレクターの胤森氏を招いて講座を開催。</p> <p>■26名</p>

③横浜ローカルツアー

横浜の「ローカル」な「ひと」や「コト」を紹介し、横浜の地域資源を再発見するツアー。体験型のツアーを取り入れることで、新たな視点で楽しく市民が横浜の魅力を再認識する機会を提供し、結果として、産業振興、街の賑わいにも貢献しました。

実施日	内容
8月23日(火)	<p>「横浜 JAZZ クラブツアー」(野毛コース)</p> <p>講師: 柴田浩一(横濱 JAZZ プロムナード・ディレクター)</p> <p>【参加費: 4,000 円 / 参加数: 45 名】</p>
9月13日(火)	<p>「横浜 JAZZ クラブツアー」(伊勢佐木町・吉田町コース)</p> <p>講師: 柴田浩一(横濱 JAZZ プロムナード・ディレクター)</p> <p>【参加費: 4,000 円 / 参加数: 42 名】</p>
9月27日(火) 10月11日(火) 10月25日(火)	<p>「クリエイティブシティとヨコハマトリエンナーレ」 (黄金町ルート)</p> <p>講師: 仲原正治(北仲スクール・コーディネーター)</p> <p>【参加費: 無料(トリエンナーレ入場料は別途) / 参加数: 11名】</p>
10月4日(火) 10月25日(火)	<p>「クリエイティブシティとヨコハマトリエンナーレ」 (新・港村ルート)</p> <p>講師: 仲原正治(北仲スクール・コーディネーター)</p> <p>【参加費: 無料(トリエンナーレ入場料は別途) / 参加数: 12名】</p>
10月4日(火) 10月7日(金)	<p>「印刷技術を巡る冒険」</p> <p>講師: 野口尚子(印刷の余白 Lab. 主宰)</p> <p>【参加費: 無料(鑄造製作費は別途) / 参加数: 12名】</p>

④関内外OPEN! 3

日 時	平成 23 年 9 月 9 日(金)～11 月 5 日(土)
内 容	<p>横浜の関内・関外エリアにオフィスやアトリエを構える建築家やデザイナー、アーティスト等の創造の担い手が主体となり、活動の成果をオープンスタジオという形でプロモーションを行なうネットワーク型事業として実施されました。今年度は、参加団体の増加に伴い関内・関外エリアを5つのエリアに分け、新たに横浜駅東口エリアを加えた6つの地域プラットフォーム形成を目指し、会期中は多彩な企画で交流の機会を作りました。</p> <p>①エリアオープン 地域と一緒に作るプログラムを企画し、街の人同士で話をする機会を増やしました。</p> <p>②デザインピッチ 様々な分野で活躍するクリエイター7組による現在の創作活動のプレゼンテーションイベント。</p> <p>③関内外ツアー スタッフの案内付で仕事場を見学する全5コースのスタジオツアー</p> <p>④イベント 会期中、ワークショップ・ツアー・展示など自主イベントが 20 以上開催されました。</p> <p>運営やツアーガイドには学生インターンが主体となって取り組み、広報宣伝は SNS (facebook、twitter) を活用し制作のプロセスを提供しました。</p> <p>【来場者数:延べ 1500 名、参加団体数:113 団体、インターン数:11 名】</p>
協働主体	主催:関内外OPEN!連絡協議会